

第17回三番瀬評価委員会の開催結果（概要）

- 1 開催日時 平成22年10月15日（金）午後6時10分から8時50分
- 2 場 所 千葉県国際総合水泳場会議室
- 3 出席者 委員7名
（細川座長、蓮尾副座長、朝倉委員、野村委員、望月委員、岡安委員、宮田委員）
- 4 参加人数 20名

5 配布資料

- 資料1 第16回三番瀬評価委員会の開催結果（概要）
- 資料2-1 三番瀬自然環境総合解析中間報告（地形・流況・水質）
- 資料2-2 三番瀬自然環境総合解析中間報告（海生生物）
- 資料2-3 三番瀬自然環境総合解析中間報告（鳥類）
- 資料2-4 平成22年度実施予定の三番瀬総合解析について
（第13回三番瀬評価委員会資料）

6 結果概要

（1）開会

県総合企画部赤塚理事からあいさつがあった。

（2）開催結果の確認委員

細川座長からの指名により、野村委員及び岡安委員が会議開催結果の確認を行うこととなった。

（3）議題

議題1 第16回三番瀬評価委員会の結果について

事務局から、第16回三番瀬評価委員会の開催結果概要（資料1）について説明を行った。

議題2 三番瀬自然環境総合解析について

いであ株から「資料2-1：三番瀬自然環境総合解析中間報告（地形・流況・水質）」の内容を説明し、意見交換を行った。

【主な意見等】

岡安委員：2003年の地形データの信頼性については注意が必要である。

望月委員：円卓会議での検討時に指摘された日の出前の砂嘴の発達等が、今回の地形変化の検討で確認できるかどうかというのは重要なことである。

年度の記述は、西暦か和暦で統一するか、併記するかにして欲しい。

いであ(株)から「資料2-2：三番瀬自然環境総合解析中間報告（海生生物）」の内容を説明し、意見交換を行った。

【主な意見等】

望月委員：データを季節ごと、生物の分類群ごとにグラフ化して検討して欲しい。

大規模な青潮が出た前後と、それ以外の青潮が出た前後、それから青潮が出なかった時の前後の日を取ってグラフ化して考えてみたらどうか。

アサリは、ふるい目を10 mm以上以下とまとめないで、特に小さい時期の動態が重要なので、小さい部分をそれぞれ独立して分析してもらいたい。

野村委員：アサリに関して、平均的な確認個体数が多い地点が地形とどういう風に関連しているのかや、地形、底質、生物の関連をどう結びつけるのか、もう少し詰める必要がある。

宮田委員：資料にあげられた生物のライフサイクルを基盤にして、無機的な環境と照らし合わせることが大切である。

細川座長：青潮については物理的な解析と連携して検討していきたい。

岡安委員：計測手法や解析手法がどういう風になってきたかというのをデータに付随する形でまとめていただきたい。

蓮尾副座長：データは、採泥する場所が微妙なところで変わると思う。

いであ(株)から「資料2-3：三番瀬自然環境総合解析中間報告（鳥類）」の内容を説明し、意見交換を行った。

【主な意見等】

望月委員：データの解析では、相関を取って傾向をきちんと分析していただきたい。

採餌と休息という場の利用は、円卓会議の時にも同じような図があると思うので、それを使う方向で考えていただきたい。採餌で、二枚貝の変化とさらに詳細な突き合わせをすともっと見えてくる。

蓮尾副座長：いろいろな点で普通に見ていて見当がつくというようなことが分析結果にも反映できるとありがたい。

日本野鳥の会東京支部で行われている1995年からのデータが非常に役に立つと思われる。

全体を通してのコメント

【主な意見等】

野村委員：ノリの施設が減ってきている。そうした人間のつくった施設とア

サリの分布あるいは底質が関連しそうな気がする。

望月委員：平面図を作ったら、作った年の一番直近のデータを重ねて考えてみるという作業が要るので、ぜひその過程をそれぞれ入れた上で、何か問題がありそうだったらやらなければいけないと思う。

会場からの質疑等

発言者A：漁場再生検討委員会で、今年、市川の塩浜よりに新しく水路を開削したいという要望が漁協から出された。地形変化が予想されるので留意してもらいたい。

細川座長：三番瀬の周辺で行われていることについては、逐次、県の方からご説明いただきたい。

(4) 閉会